

2021年度 学内研究推進経費採択者一覧

1. 指定研究

専攻	職名	代表者氏名	研究課題名
情報	教授	加藤 昇平	触覚・音声のクロスモーダルなインタラクション技術に基づく共創空間の実現
電気・機械	准教授	田中 由浩	
情報	准教授	南角 吉彦	

2. 戦略的研究 (新規)

専攻	職名	代表者氏名	研究課題名
生命・応用	教授	中村 修一	新規フォトレドックス不斉触媒の開発による革新的有機合成技術の開拓
物理	教授	池田 勝佳	高効率エネルギー変換に向けた水素結合ネットワーク構造の直接観察技術の確立
共同ナノメディシン	教授	柴田 哲男	地球環境汚染に関わるフッ素化合物の新リサイクル技術
生命・応用	教授	藤 正督	水銀圧入式ボロシメーターの水銀代替低融点金属の検討
社会	教授	野中 哲也	流域的防災管理に向けた構造物強化と地域的枠組み強化の統合的戦略に関する研究

3. 戦略的研究 (継続)

専攻	職名	代表者氏名	研究課題名
生命・応用	教授	川崎 晋司	陰イオンを動かし貯蔵するという発想の革新電池
社会	教授	前田 健一	都市地下に潜む陥没災害の二相流メカニズム解明と地下の維持管理の方法の提案
生命・応用	教授	高須 昭則	木粉のエステル化による新規生分解性材料の設計
生命・応用	教授	北川 慎也	10μm以下の環境中マイクロプラスチックの包括的キャラクタリゼーションシステムの開発
生命・応用	准教授	小幡 亜希子	層状複水酸化物を用いたがん治療用材料の開発
生命・応用	教授	早川 知克	機能性テルライトガラス材料の計算機モデル化と機能設計データベース構築

4. 将来を見据えた研究

専攻	職名	代表者氏名	研究課題名
物理	助教	本田 光裕	真の表面電子状態観察に基づいた熱電子機構の解明
生命・応用	准教授	大幸 裕介	イオン伝導性ガラスを用いた室温・大気圧における生細胞への直接イオン照射および細胞応答評価
物理	准教授	宮崎 秀俊	クライオリングによる非平衡相の合成とナノ組織化の指導原理の探究
生命・応用	助教	片山 耕大	振動分光と有機化学が切り拓くGPCRを対象とした革新的医薬品の分子設計への挑戦
物理	助教	宮崎 怜雄奈	Na化合物を固体電解質に用いた全固体Li電池の構築
電気・機械	准教授	岸 直希	柔軟な繊維状熱電変換素子の創成と新規用途開拓
生命・応用	准教授	宮川 淳	病原物質を吸着・検出する透明材料の開発
情報	准教授	酒向 慎司	一人称視点映像によるモーショントラッキング技術の高度化と手話認識の研究
物理	助教	宮川 鈴衣奈	超広帯域光を用いたナノ周期構造形成
物理	准教授	佐藤 尚	ショットピーニングと熱処理にて創出する結晶学的集合組織の形成原理解明
電気・機械	准教授	安在 大祐	狭帯域マルチパスキャンセラによる電波源到来方向推定システムの開発
社会	准教授	濱田 晋一	城郭石垣の意匠性に関する研究

5. 若手研究

専攻	職名	代表者氏名	研究課題名
電気・機械	准教授	氏原 嘉洋	心筋細胞の分裂能喪失と核の力学特性に関する基礎的研究
生命・応用	助教	住井 裕司	直線フッ素官能基とテルフェニル構造を利用した不凍作用分子の開発
生命・応用	助教	漆原 大典	二量体構造の局所構造制御による機能探索
生命・応用	助教	江口 裕	セルロースナノファイバー/層状フィラーの配向制御による高分子トライボ材料の耐久性向上
電気・機械	助教	矢野 佑典	次世代車載通信における潜在的なエラー要因の解明
物理	助教	瀧川 佳紀	せん断流下における2周波液晶の電気粘性効果と過渡応答
物理	准教授	本林 健太	高温下・加圧下におけるイオン液体/電極界面のその場構造観測
生命・応用	助教	古川 陽輝	攪拌槽内未混合領域の発生位置推算方法の開発
生命・応用	助教	MARTIN Alexander	Improving the energy harvesting properties of piezoceramics via a composite approach – The influence of conductivity
物理	助教	中村 翔太	熱振動法によるカイラル金属磁性体の不斉合成と大型化
電気・機械	助教	加藤 慎也	高可逆性と高容量を両立する新規ナノシリコン負極を用いたリチウムイオン電池の開発
情報	助教	金 鎔煥	低機能自律移動型端末群による分散協調問題の可解性の解明
生命・応用	准教授	信川 省吾	ストライプ状紫外光を利用した軟硬連続構造形成によるアクリルフィルムの超強靱化
物理	助教	成田 麻未	異材接合界面における応力解析および残留応力低減手法の開発
物理	助教	徳永 透子	極微細配向化組織制御による新規超高強度Ti合金の創製
電気・機械	助教	杉本 義喜	複数面の疎な波源近傍電界を用いた逆問題解析メカニズムの解明